

〈各班の発表〉～第7回市民会議(H22.7.31)

1班

地域にそれぞれ活動あるが、バラバラでなく

- ・若者の定住できる環境づくり
→戻ってくる。よそから来てくれる。
(例)庚申組が中心に休耕地に鯉をはなしたり、～面白い活動
アメンボ読書会(図書活動)
虹のせせらぎ
(子育て中心の活動)
- ・地理的条件活かした活動
西・東三河の間→西の玄関口
- ・つくでは高原、新城は平地
～同じ花(ex.コスモス)も時期がずれる
- ・観光(田舎の金もうけ)→まちづくりの資金になる
～長く滞在してもらえる
 - ・自然を活かす
 - ・歴史でつないだ観光ルート
虹の里、手づくり村～そこでしか体験できないもの(店)
(地域ブランド)
- ・北部～JA北部支所なくなる→お店がなくなってしまう
→お店づくりをまちづくりに
- ・地域の夢づくり
 - ・コミュニティの活動が中心が
 - ・小学校(地域とつながり)の存在→それぞれの地区が外へ発信
〃聞く
→人を呼びこむまちづくり

2班

活動団体～元気な団体

- ・さわやかネット～女性の団体・ネットワーク
- ・たべらっく～最近私たちがつくった
合併してからなんとなく元気がない
⇒どうしたら元気なるか?
月1回あつまり(女性)
まちづくりについて考える
- ・老人クラブ
- ・青年団(人数少ないが頑張っている)
- ・太鼓
- ・ハミングバードなど
- ・頑張っている団体が主になって、
 - ・サマカン
 - ・森の音楽祭 ⇒人のあつまる場所になっている
 - ・つくでまつり
- ・「道の駅」～平日も人があつまる
→他のところにも来てもらえるようにならないか?
～今、
 - ・特産物(農業さかん)
→どう後継者つくり続けていけるか?
- ・老人が多い～心配ごと?
→公共交通(足軽くん)→十分か?
医療～診療所今はあるがとても困っているほどではな

い

まとめ

今までの作手村の時代～村全体が家族

みんなの助け合いのシステムあった

↓

合併して大きくなってとなりに

市役所のどこへ行っていいか分からなくなった

↓

どう解決していくか?

↓

〈各班の発表〉～第7回市民会議(H22.7.31)

3班

【作手のいいところ】

- ・農業がさかん～おいしいものが多い
 - ・道の駅～お客沢山
 - ・自然も豊か みる所も沢山
 - ・イベント～サマカン、まつり、パラグライダー

「農」と「自然」を結びつけたら活性化
→人のかかわり

- ・農業賞
 - ・トヨタOBが農業

- ・30～40代が頑張っている
 - 地域でのコミュニケーション 炭焼き

- ・歴史上の人物
 - 道頓堀
- ・ハミングバード～活動の応援
- ・甲子園～金山～
- ・都市と農村の交流さかん
 - 人のかかわり→地域を元気に

4班

サマーカントリーフィーバー

～これからも続けたいもの

- ・盆おどり、花火、はねこみ、フォーク
- ・実行委員(青年団、花火同好会、商工会、市(支所))

～続けたいところ

- ・8/15→外へ出た人が戻ってくる
- ・つくでが一つになれる
- ・この日を楽しみにしている人もいる
 - 地域の活力源になっている

～課題

- ・運営費(花火)
- ・人手不足(青年団)
- ・高齢化(はねこみ)
- ・一体感ない(主催者一参加者)
 - 熱が伝わっていないのでは?

サマカン

つくでの中のイベントになりがち

→今後は「新城市」にもなったし、外の人を呼びこむ活力にしたい

【続ける意味】

「はんこみ」→子どもたちに教える

実行委員→限られている→地域に広げたら？(コミュニティの役員など)

運営費不足は課題